

長岡天満宮の

万灯祭

今春、50年に一度の長岡天満宮の万灯祭が行われます。

このまつりは、いつから、どのように行われてきたのでしょうか。この伝統行事と長岡天満宮に関する資料を紹介しましょう。



展示期間

平成14年2月5日～3月31日

✿ 長岡天満宮^{まんどうえ}万灯会の始まり

長岡天満宮は、ふるくから「開田天満宮」としてまつられてきました。元和3年(1617)開田村のほとんどが八条宮家領となったことにより、開田天満宮は大きく変わっていきます。文化人として名高い智仁親王・智忠親王が、社地を天神山に移し、大池をつくり、社観の整備と勤農を進めたからです。

次に訪れた大きな転機は、元禄2年(1689)に豊元上皇^{れいげんじょうこう}の息子作宮^{つくりのみや}(常磐井宮^{とまわいのみや})と同じく豊元上皇の息子で元禄9年に天逝した作宮に代わった^{ふみひと}智仁親王(京極宮^{きょうごくのみや})の代です。豊元上皇の力をバックに境内や社殿、祭儀や年中行事、そしてそれを執り行う地元の神主や宮仲間の組織が整備されました。

万灯会は、このような元禄の再興のなかで、元禄15年(1702)の菅原道真800年忌に催されたのが始まりです。朝夕500ずつ、10日間で1万の灯明をともし、祭神菅原道真の霊を慰めるもので、以後宝暦2年(1752)享和2年(1802)嘉永5年(1852)と、50年ごとの年忌の祭会として行われてきました。

☀ 洛西きっての名勝地～境内の整備～

開田天満宮は江戸時代中ごろになると「長岡天満宮」と称されるようになります。50年毎の年忌に行われる祭りが近づくと、その都度宮家によって社殿の修理が行われ、また地元や京都近郊の人々からも石灯籠などが寄進されて、境内の整備がすすめられます。

境内の一新という点で、特筆されるのは安永5年(1776)から始まる大修造です。これがおおよそ完成したのは5年後の天明元年(1781)のことで、ちょうどこのころ刊行された「^{みやこめいしよ}都名所_{ずえ}図会」の初版本(安永9年=1780刊)には、大修造前のようすが掲載されています。

さて、大修造で境内はどのように変わったのでしょうか。キリシマツツジがうえられたのはいつのことでしょう。境内のうつり変わりがわかるいろいろな資料を展示しますので、その変化を見



今回の万灯祭でも、平成9年から社殿の改修や境内の整備が取り組まれました。3月に見学会を予定しています。早春の境内をいっしょに歩きませんか。(くわしくは「広報ながおかきょう」2月15日号でお知らせします)。

展示資料

2月5日～3月3日

- * 「享和2年900年御神忌雑記」(長岡天満宮蔵)
- * 「都名所図会」木版本
- * 「長岡天満宮境内図」(石原義胤家蔵版木刷本)

🌟 長岡天満宮の再建と近代の万灯祭

時代は変わり、明治維新へ。桂宮家領は新政府によって没収されましたが、地元開田村の宮仲間たちは長岡天満宮存続の嘆願書を提出して運動を行い、村社として残ることになりました。しかし、それはまた、宮家の援助を離れての苦しい再建の始まりでもあったのです。

菅原道真 1000 年忌にあたる明治 35 年(1902)の万灯祭では、境内一帯を「長岡公園」として整備し、祭りを盛大に行い、「洛南の歓楽地」にしようと、約 300 名の発起人と賛同者の連名で広く寄附が募られました。

祭りの名は「万灯会」^{まんどうえ}から「万灯祭」^{まんどうさい}と変わりましたが、開田龍組青年夜学会が奉納した 1000 年祭の絵馬には献木行列のようすがいきいきと描かれており、存続の危機を乗り越え、伝統行事を守った人々の姿が伝わってきます。



万灯祭は、昭和 27 年(1952)に 1050 年祭が行われ、平成 14 年(2002)の今回は 1100 年祭にあたります。なお昭和 52 年には 1075 年祭も行われています。

展示資料

3月5日～3月31日

- * 「長岡公園増築寄付金芳名録」(明治 34 年)
- * 「長岡公園絵はがき」(長岡天満宮蔵)
- * 「京都府乙訓郡名勝案内記」(明治 36 年)

☀ 庶民のねがいを込めて

絵馬は、本来生きた馬を神に奉納する信仰から生まれたもので、馬の絵を描いた木の板を、生きた馬の代わりにしたものです。江戸時代になると、庶民のねがいを込めたさまざまな画題の大型の絵馬（板額）が奉納されるようになりました。

長岡天満宮には、平成 9 年まで絵馬堂があり（現在は神楽所となる）、ここに約 30 面の絵馬が掲げられていました。



これらの絵馬のなかには、嘉永 5 年や明治 35 年ものが含まれており、万灯祭の時に絵馬が奉納されたことがわかります。また安永から天明期の大修造の時に奉納された絵馬も多くみられます。



画題としては、馬とならんで天神信仰とかかわりの深い牛の絵馬が多いことが特色です。

くわしく知りたいときは

長岡天満宮の歴史や万灯祭については、『長岡京市史』資料編二と本文編二
境内や絵馬については、『長岡京市史』建築・美術編

をご覧ください

次回展示予定

神足村の自治と記録（平成 14 年 4 月 2 日～5 月 31 日）